

女子

奥州胆沢クラブ 初優勝

県小学生バレーボール育成大会

金ヶ崎VBC(男子) 3位

第30回県小学生バレーボール育成大会は23-24日、奥州市総合体育館を主会場に行われ、女子は奥州胆沢バレーボールクラブが決勝で猪川バレーボールスポ少(大船渡市)を2-0で下し、初優勝に輝いた。奥州胆沢クラブは、来年3月27-30日に和歌山県で開かれる第11回全国スポ少交流大会に出場する。男子は花巻バレーボールスポ少が初優勝。2年ぶりの優勝を狙った金ヶ崎VBCは準決勝で敗れ3位となった。



初優勝に輝いた奥州胆沢バレーボールクラブ



スパイクを放つ奥州胆沢クラブ・高田帆南(若柳小5年)

念願の全国切符

奥州胆沢クラブ

一関2-0下矢作	INC2-1大新	猪川2-0大船渡
湯本2-0北上	一関2-1日頃市	▽準決勝
気仙2-1田野畑	大船渡2-0湯本	奥州胆沢2-0雲石
▽2回戦	猪川2-0気仙	猪川2-0INC
奥州胆沢2-0久慈	▽準々決勝	▽決勝
手代森2-0高田	奥州胆沢2-0手代森	奥州胆沢2-0猪川
矢巾2-0東和	雲石2-1矢巾	(奥州胆沢クラブは初優勝)
雲石2-0萩荘	INC2-1一関	

に逆転負け。目の前で消えた全国切符に「話めが甘かった」と泣いて悔しがった同チーム。第1シードで臨んだ今大会では初戦から全力。1点の大切さを胸に、トーナメントを一気に勝ち上がった。

「どんな試合よりも声を出した」と土谷主将。得点のたびに笑顔でコート駆け回ったメンバーたち。佐藤美夢は「6年生最後の大会。楽しんでプレーすることができた」と仲間とつかんだ優勝に胸を張った。

のチーム課題を挙げ「本番までに一人一人のプレーの向上を」とチームと自身に喝を入れる。「他のチームがびつくりするようなスパイクを打ちたい」と気合十分の佐藤。高田も「ブロックの間隙ができないようにしたい」と全国舞台での活躍を誓う。

大会には県内各地から男子26チーム、女子70チームが出場。胆沢地区から男子5チーム、女子7チームがエントリーし、予選リーグ、決勝・順位別トーナメントで優勝を争った。

【男子】

◆決勝トーナメント

▽準決勝

花巻2-0九戸

雲石2-1金ヶ崎

花巻2-0東和

▽決勝

花巻2-1雲石

(花巻は初優勝)

女子は奥州胆沢クラブが決勝トーナメントをすべてストレート勝ち。うれしい全国大会出場権を手にした。

決勝戦「奥州胆沢クラブ-猪川」は、8月の県選抜大会決勝と同じカード。この時は、フルセットにもつれる接戦を奥州胆沢クラブが制したが、今対戦で

は2-0で完勝。コート上で夏場からさらに成長した姿を示した。試合は序盤から奥州胆沢クラブのペース。精度の高い土谷優奈主将(胆沢愛宕小6年)のトスに、レフト佐藤美夢(水沢小6年)の鋭いクロス、センター

でアタック、ブロックに活躍する高田帆南(若柳小5年)が着実に加点。バックも丁寧なサーブカットと守備で攻撃を支えた。

6月の全日本大会出場を懸けた県大会では、決勝で勝利に王手をかけながら手代森

全国大会は4カ月後。また練習漬けの日々が始まる。土谷主将は、サーブミスなど

と初めての全国挑戦を選手たちと楽しみに待つ。

(山田悟史)

◆決勝トーナメント

▽1回戦

久慈2-1雲石

東和2-0宮古

萩荘2-1EJVC

大新2-0和賀

接戦を奥州胆沢クラブが制したが、今対戦で

は2-0で完勝。コート上で夏場からさらに成長した姿を示した。試合は序盤から奥州胆沢クラブのペース。精度の高い土谷優奈主将(胆沢愛宕小6年)のトスに、レフト佐藤美夢(水沢小6年)の鋭いクロス、センター

でアタック、ブロックに活躍する高田帆南(若柳小5年)が着実に加点。バックも丁寧なサーブカットと守備で攻撃を支えた。

6月の全日本大会出場を懸けた県大会では、決勝で勝利に王手をかけながら手代森

全国大会は4カ月後。また練習漬けの日々が始まる。土谷主将は、サーブミスなど

と初めての全国挑戦を選手たちと楽しみに待つ。

(山田悟史)